



Hokkaido Lifelong Learning Association

ほっかいどう
生涯学習
Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



目次

- 生涯学習協会「令和2年度事業計画」の概要…… 2
- 令和2年度情報交流広場展示計画…………… 5
- 寄稿「本物を学ぶ喜び」…………… 4
- 随想49…………… 6
- 令和2年度 ほっかいどう学かでの講座…………… 5

生涯学習協会「令和2年度事業計画」の概要

次のとおり令和2年度の事業を計画しましたので、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

会計区分	事業名	内 容
公益目的 事業(公1)	1 生きがいづくり 生涯学習促進 事業	<p>国際化・高齢化・情報化等社会の変化に対応し、生涯にわたって生きがいのある人生を送るために、「生きることは学ぶこと」の視点から、道民への学習の機会を提供する。</p> <p>○テーマ：「人生を共に豊かに過ごすために」</p> <p>○期 間：5月～1月</p> <p>○会 場：全道6会場</p> <p>○対 象：道民、1会場80人程度</p> <p>○内 容：講演・実技・演習等を基本に、実施市町村の計画する内容を支援する。</p>
	2 かでの講座事業	<p>道民の学習ニーズや今日的課題に焦点を絞った講座を開設し、道民への学習機会を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数：10回程度 ・開催時期：4月～12月 ・会 場：かでの2・7 ・対 象：道民、1講座200人程度 ・講座時間：1講座2時間 <p>○連携開催を希望する市町村にICT機器を使用した遠隔学習を実施する。</p>
	3 ほっかいどう生涯学習ネットワークカレッジ(道民カレッジ)事業の推進	<p>学習ニーズの多様化、高度化に対応するため、学ぶ意思のある道民のすべてを対象に、産学官が連携して総合的な学習機会を提供するとともに、自立した北海道の創造に寄与する人材を育成し、生涯学習のネットワーク化を図る。</p> <p>また、ジュニアコースの学びを通し、次代を担う子供たちの生きる力の育成を図る。</p> <p>○主催講座</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インターネット講座 <ul style="list-style-type: none"> ・ほっかいどう学大学インターネット講座 「ほっかいどう学」に関する専門的な学習コンテンツを2本とDVDを制作しインターネットで配信するとともにDVDを活用する学習を支援する。 ・地域活動インターネット講座 地域活動に関する動画を2本とDVDを制作し、インターネットで配信するとともにDVDを活用する学習を支援する。 2 地域活動実践講座 各地で活躍している道民カレッジ生の発表や実地学習を行う。「地域活動インターネット講座」との連携を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容：札幌市以外で年2回実施 ・そ の 他：道民カレッジ生の地域活動をホームページに掲載し紹介。 <p>○連携講座 道民カレッジに賛同する大学等や市町村、民間教育事業者等が実施する講座・セミナーを体系化し、道民に講座情報を提供し学習機会の拡充を図る。</p> <p>○普及啓発・情報提供 道民カレッジ事業の推進のため、次の普及啓発及び情報提供を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・道民カレッジガイドブックの作成及び配布 ・カレッジだよりの作成及び配布 ・道民カレッジポスター・リーフレットの作成及び配布 ・道民カレッジ手帳の作成及び交付 ・ホームページ及びツイッターによる適時な情報提供 </p>

会計区分	事業名	内 容
公益目的 事業(公1)	4「道民カレッジ」 インターネット 講座支援事業	<p>「道民カレッジ」の主催講座である「ほっかいどう学インターネット講座」「地域活動インターネット講座」のレポート作成を支援する学習会を開催し、広く道民の学習活動を支援する。</p> <p>○レポート学習会：動画配信後 ・開催場所：かでの2・7ほか</p>
	5「道民カレッジ」 ボランティア活 動支援事業	<p>道民カレッジの充実と推進を図るため、道民カレッジボランティアによる自主的・自発的な活動を支援するとともに、圏域間の情報交流や称号取得者の技能等の向上を図る。</p> <p>○人 数：約80人 ○活動場所：全道4圏域 ○主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレッジ事業への運営協力、支援活動 ・カレッジ生の学習相談活動 ・単位取得方法及び称号取得へのアドバイス活動 ・カレッジ生の加入促進活動 ・カレッジ生間の情報交流会の活動 ・新規講座の自主的な企画、実施活動 <p>○主な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域代表者会議の実施 ・称号取得者セミナーの実施
	6 学習成果実践事 業	<p>道内各地で学習している道民が、その学んだ成果を活用して、自ら講座を企画・実施し、地域づくりを担う実践力を育成する。</p> <p>また、顕著な功績が認められる実践者等を表彰する。</p> <p>○開催時期：4月～ ○開催会場：道内4会場 ○対 象：道民 ○内 容：講演・実践発表等、かでの講座の遠隔学習、インターネット講座の学習</p>
	7 広報誌発行事業	<p>会員及び生涯学習関係機関・団体等に広報誌を通して情報を提供し、生涯学習の振興に寄与する。</p> <p>○回 数：年4回 ○部 数：1回1,200部</p>
	8 生涯学習情報資 料の展示・提供 事業（情報交流 広場管理事業）	<p>生涯学習に関する図書・資料・リーフレットなどを展示・提供するとともに、道内市町村や団体の生涯学習の取組や成果等を広く紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ、LD、インターネット講座DVDの視聴 ・道内市町村の広報誌及び情報リーフレットの展示 ・ガイドブック、ポスター及び連携講座関係資料の展示 ・道内市町村及び団体の学習活動に関する実践成果等の企画展示会の開催 ・道民カレッジ生の交流コーナーの活用促進 ・道民の利用に供するため、平日、日曜日（9：00～18：00）に広場を開館
	9 視聴覚教材貸出 事業	<p>生涯学習活動の振興を図るため、道教委保有の視聴覚教材を官公庁、学校、社会教育関係団体等に貸出しする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16ミリフィルム、ビデオ、LD、DVD ・フィルム上映会の実施（毎月2回）

「本物を学ぶ喜び」

ジャーナリスト・北海道大学客員教授

久田徳二

食と農を学ぶ親子体験講座「あぐり大学」をご存知だろうか。北大農学部と道新編集局の連携事業の一つだ。2014年度に開校しこれまで37回の講座に延べ約1500人の親子が参加した。

受講生は子ども（小4～中3）とその親（保護者）。コメや果実、牛、魚、土、水、森、化学、買い物など多彩なテーマを独自の手作りプログラムで学ぶ。「頭と体で学ぶ」がキャッチフレーズで、リアルな生物や環境や社会に直接触れて生身で感じる体験を重視している。

北大教員と道新編集委員で構成する私たちのチームが、講座に織り込むのはこの「リアル」と「センスオブワンダー」（驚きの感覚）。子どもたちがバーチャル情報を画面で見ただけでなく、リアルな本物に触れると、この感覚が働き、心が震える。こういう体験を重視した内容になっている。



今、子どもたちに「体験」が少ないという。例えば小学5年生には「放課後の時間」が4時間34分あるが、このうち「勉強」は1時間17分、「メディア」（テレビ、スマホなど）が1時間13分と多いが、「遊び」（屋内外）は42分、「人と過ごす」が18分と極めて少ないⁱ。

私が小学生のころは、帰宅後日が暮れるまで友達と過ごした。近くの川で魚を獲り、森で虫を捕まえ、畑の作物をかじり、といったことに夢中になっていたのだ。

文部科学省は「自然に親しむ体験」「生活体験」などに注目しているⁱⁱ。調査によると、「現在の子どもたちは、自分が子どもの頃と比べて、体験活動の機会が少なくなっている」と感じている保護者は69%に上っているⁱⁱⁱ。

北欧やドイツでは「子どもは森で育つ」と言われ、自然体験学習が教育の中心に位置付けられ、「森の幼稚園」という活動が広がっていると聞く。それほど、自然は多くを教えてくれるのである。



自然と社会そのもの、リアルな本物に触れることがどれほど大事なことから、それが「あぐり大学」の6年間でも分かってきた。

子どもたちが生きた牛の体に初めて触った時には「温かい」と声をあげた。収穫直後の稲穂に鼻を近づけた時には「いい匂い！」と言った。土の中からミミズを1匹見つけた子どもは嬉しくなって次々にミミズを探し出した。10種以上のリンゴの品種の味を食べ比べると同時に機器で糖度などを測定する実験では「面白い」とつぶやいた。ホダ木に生えたシイタケを初めて目にした子どもは食い入るようにキノコの根元を見ていた。

まさに、本物に触れたことで学んだ喜びが、体で表現された、というより、心と体からにじみ出た瞬間である。このような感動は、たぶん一生残る。あの温かさ、匂い、味が忘れられない、という思いが大人になっても続くだろう。そして「不思議だ」「なぜだろう」の思いは、より深い学びにつながっていく。子どもたちから学ぶことは実に多い。



「あぐり大学」は毎年4～6回、北大農学部などを会場に開催。春にはプログラムと受講要領が北大農学部HP、Facebookの「あぐり大学」ページなどで発表される。「親子講座」だが、参加する保護者は親でなく祖父母や親戚、近所の友人でも可能。なお、「道民カレッジ連携講座」への登録に向けて現在検討中。近く、登録され親子で単位を取れることになる予定。お楽しみに。

ⁱ ベネッセ教育総合研究所「第2回放課後の生活時間調査－子どもたちの24時間－ダイジェスト版」（2015年）

ⁱⁱ 文部科学省生涯学習政策局青少年教育課「青少年の体験活動の現状について」（2016年）

ⁱⁱⁱ 独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査」（2014年度）

令和2年度 北海道学かでの講座

No.	月	期 日	タイトル (仮)・略歴	分野
1	4	4月16日 (木)	「昭和のなつかしグルメ」 株式会社 亜璃西社代表取締役 和田 由美 氏	生活
2	5	5月21日 (木)	「先人たちの息吹を感じる 歴史的建造物と生業」 北海道開拓の村館長 中島 宏一 氏	文化
3	6	6月9日 (火)	1945年占守島 (シュムシュ) の戦いから北方領土占領まで 北海道新聞ぶんぶんクラブ事務局長 相原 秀起 氏	近代史
4	7	7月13日 (月)	「スノーボードで北海道の魅力を発信」 プロスノーボーダー、ユニバーシアード日本代表 宮武 祥子 氏	スポーツ
5	8	8月18日 (火)	「農業ロボット研究の最前線」 北海道大学農学部教授 野口 伸 氏	農業
6	9	9月11日 (金)	「着眼大局・着手小局」 日本棋院東京本院 棋士 遠藤 悦史 氏	文化
7	10	10月6日 (火)	「神田日勝の生涯」 (仮) 北海道立近代美術館 学芸員	芸術
8	10	10月21日 (水)	「ほっかいどう山楽紀行」 登山愛好家 坂口 一弘 氏	健康
9	11	11月9日 (月)	「音が甦る「リズム」～オーボエの音にのせて～」 北翔大学教授 オーボエ奏者 今井 敏勝 氏	音楽
10	12	12月10日 (木)	「北の歴史を彩った人たち」 ノンフィクション作家 合田 一道 氏 (ほっかいどう学を学ぶ会顧問)	歴史

令和2年度情報交流広場 (まなびの広場) 展示計画 (案)

月	実施期間	実施団体名	展示テーマ
4	4/1 (水) ~ 4/30 (木)	松浦武四郎友の会北海道	蝦夷 (アイヌ) 風俗絵巻展
5	5/11 (月) ~ 5/29 (金)	石狩市民カレッジ	石狩市民カレッジで学びませんか?
6	6/3 (水) ~ 6/18 (木)	北海道立青少年体験活動支援センター	道立青少年体験活動支援施設 ネイバルPR展
	6/19 (金) ~ 6/28 (日)	(NPO)国際芸術文化協会	日・韓・中相互開催40回記念誌令和 2年 (日・中・韓共同未来事業多文化 の祭典2020年)
7	7/1 (水) ~ 7/14 (火)	北海道文化財保護協会	北海道各地の歌と文化資料
8	8/3 (月) ~ 8/31 (月)	北海道埋蔵文化財センター	公益財団法人北海道埋蔵文化財セン ター発掘調査成果パネル展
9	9/1 (火) ~ 9/15 (火)	札幌市中央区健康友の会 絵画サークルたんぽぽ	身近な自然・風景を楽しんで
	9/16 (水) ~ 9/30 (火)	松前神楽北海道連合保存会	松前神楽の世界 ～道南の伝統文化を知る～
10	10/5 (月) ~ 10/15 (木)	札幌音楽同好会	1960年代ポピュラー音楽のレコード展
	10/16 (金) ~ 10/30 (金)	北海道文化財保護協会	世界遺産登録に向けた縄文遺跡群な どの資料の展示 (仮)
11	11/2 (月) ~ 11/30 (月)	北海道ガールスカウト連盟	ガールスカウト北海道連盟活動展示会 ～私が変わる。未来が変わる～
12	12/1 (火) ~ 12/28 (月)	北海道特別支援教育センター	特別支援学校作品展
1	1/5 (火) ~ 1/29 (金)	札幌燈霧 (とうぎり) 資料調査会	北海道の夜明け ～北の燈霧 (とうぎり) 物語～
2	2/1 (月) ~ 2/26 (金)	北海道心の教育推進協議会	心の教育推進キャンペーン強調月間展
3	3/1 (月) ~ 3/19 (金)	写真集団はまなす	令和2年度写真集団はまなす展

※内容については変更になる場合もありますのでご了承ください。

随想49

日本酒から世界酒へ

最近、ソムリエで料理評論家の田崎真也さんの「テノワール」に関する紹介に出会った。“日本酒が「世界酒」に”というテレビ番組である。テノワールとは「土地」を意味するフランス語から生まれた言葉で、ワイン用の葡萄を取り巻くすべての場所・気候・土壌という自然環境のそれぞれの特徴のこととされる。つまり、その作物における生育環境とも言えるという。日本で言えば、地元の材料＝米から作られる日本酒が独特の“旨み”をもつにはテノワールが必要ということらしい。

これと関連して、近年、純米大吟醸や吟醸酒が西洋人などワイン通に評価されており、ヨーロッパ各地やアメリカなどで酒（いわゆる日本酒）醸造所が増えているらしい。イギリス2、フランス3、スペイン2、イタリア・台湾・ニュージーランド・チリ・メキシコ各1、アメリカ15、カナダ3箇所などがあるという。このように外国での酒メーカーが増加しており、もはや“日本酒”から“世界酒”と呼ぶべきであるという世界になってきているのである。日本酒好きの人間にとってはひじょうにうれしい限りである。

ここで思い出したことがある。日本で日本酒を醸造していない県は鹿児島県だけであるが、一度

沖縄県の日本酒をいただいて呑んだことがある。具志川市の泰石酒造kkの「黎明」という15-16度の純粋清酒であるが、申し訳ないが、私には大変まずかった経験をもつ。同様の経験がもう一つある。

米国月桂冠株式会社吟醸というラベルをもつカリフォルニア産の日本酒である。京都伏見の月桂冠と同じラベル使用なので、月桂冠の杜氏による日本酒であろう。しかし味はまだまだであった感があったのを思い出す。テノワール意識がまだ無い時代の20年前頃の話である。1989年設立との事で、日本で培ってきた四季醸造システムやその後の新規技術を備えた酒蔵を完成させて酒造りを行ない、「SAKEを世界に」を目指していたという。そして、日本の月桂冠kkの酒には二級酒時代のラベルにも“The Superior Japanese Sake Gekkeikan”と銘記したり、“since 1637”と表記しているが、「世界酒」を目指していたのであろうとも思えるのである。

今や、日本のワインそして北海道のワインの質が向上して世界的にワイン通をうならせつつある。これもテノワールの成果なのであろうが、「世界酒」という名は、日本文化の一つの象徴である「日本酒」とは少々意味合いが違う気がする。

(公財)北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

事務局からのお知らせ

●賛助会員を募集しています

当協会では、会員の皆様のご支援ご協力により各事業を実施しております。

つきましては、当協会の賛助会員を募集しておりますので、よろしくお願いたします。

※賛助会員（個人 一口3,000円、団体 一口10,000円）

詳しくは事務局までご連絡ください。

(札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7

TEL011-281-6661)



●表紙写真提供 三原和廣氏

編集後記

今年の冬は当初記録的な少雪だったことからすぐに雪も溶けてこのまま春の訪れが早いのだろうと考えていましたが、2月に入って毎日降雪があり結局道内各地とも例年並みになったのではないのでしょうか。これからは日一日と暖かくなり花の便りも聞かれる季節となりました。

お陰様で当協会の令和元年度の事業も予定通り終了

することができました。皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

今号には令和2年度の事業計画の概要を掲載いたしました。本年度も多くの道民の皆様の学習活動を支援してまいりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。